

津城跡現地説明会資料

調査原因：三交不動産株式会社本社ビル新築工事

所在地：津市丸之内249番地3ほか

調査期間：平成26年1月27日～2月15日（予定）

調査主体：津市教育委員会

調査面積：約150㎡

1. はじめに

津城跡は、安濃川下流の標高2m前後の沖積地に位置し、織田信長の弟信包により安濃津城として天正8年（1580）頃には築城されたといわれています。その後、城主となった富田氏に代わって入府した藤堂高虎は、慶長16年（1611）から津城の大改修に取り掛かり、東之丸・西之丸を設け内堀を拡張し、二之丸や外堀を整備し、更に安濃川・岩田川を自然の要害として巧みに利用しました。同時に城の北から西側を武家屋敷地とし、海岸寄りを通る伊勢街道を城の東に引き入れるなど城下町の整備も行っていました。

江戸時代を通じて藤堂家は国替えもなく、比較的安定した藩統治を続けており、城内の利用形態は時期によって変わるものの、城地に大きな変化は認められません。

明治時代に入って櫓などは取り払われ、内堀・外堀も次第に埋め立てられるなど、かつての城内も次第に新たな土地利用が進んでいきました。戦後は広大な本丸南の内堀も埋め立てられ、現在は本丸と西之丸がお城公園として、その周囲に内堀の一部が残っています。

2. 調査の結果

事業地が津城跡外堀の南東部にあたることから（図1）、建物建築によって現状保存ができない部分を対象に発掘調査実施したところ、外堀の他、岩田川との間に設けられた堤の基礎部が確認されました。

（1）堤

調査の結果、南端の堀底近くから横木とそれを固定する木杭が確認されました。横木は直径15cm程の自然木で、総延長16m以上にわたってほぼ水平に置かれ、その真下や外側に木杭を打ち込んで固定しています。木杭の一部には、樹皮のようなもので横木を縛って固定しているものもありました。

これらは、その場所から外堀と岩田側の間に築かれた堤の基底部、土留めなどの基礎工事の一部と考えられます。堤は江戸時代の城下絵図にも描かれており、寛文 11 年(1671)年に堤に松が植えられ、幕末の嘉永期(1848~1853)の城下絵図(図2)には、松並木として描かれています。現在、堤はその大部分が現在の国道 163 号とほぼ重複しています。

堤付近の外堀は昭和初期まで一部が残り、鰻堀と呼ばれていましたので、今回確認された横木なども後世の改修に伴う可能性もありますが、築堤に関わる土木技術を知ることのできる貴重な資料です。

(2) 外堀

外堀は後世に攪乱された部分が多く、詳しい状況は分かりませんが、堀底が現地表面から約 2.8mの下で確認されました(標高は海拔-0.6m)。堀底付近には瓦などを含む層があり、堀として機能していた頃の堆積層と考えられます。

これより上層からは、一気に埋め立てられた様子が見て取れます。鰻堀は、昭和初期の地図(図3 昭和2年)を最後に姿を消すので、その頃のものと考えられます。

外堀から出土した遺物は少なく、コンテナケースで約 10 箱、瓦のほかには陶磁器が中心ですが、古墳時代の土師器(高杯)などもわずかですが出土しています。

まとめ

今回の調査で確認された堤は、岩田川と外堀を分けるとともに、江戸時代には伊勢街道沿いの町屋と西側の武家屋敷地を結ぶ重要な通路でもあり、現在もなお主要な道路として利用され続けています。

堤基礎部の詳細な構造は、その多くが現道の下にあることから、明らかではありませんが、今回の調査では築堤に関する土木技術を考える上で貴重な資料を得ることができました。

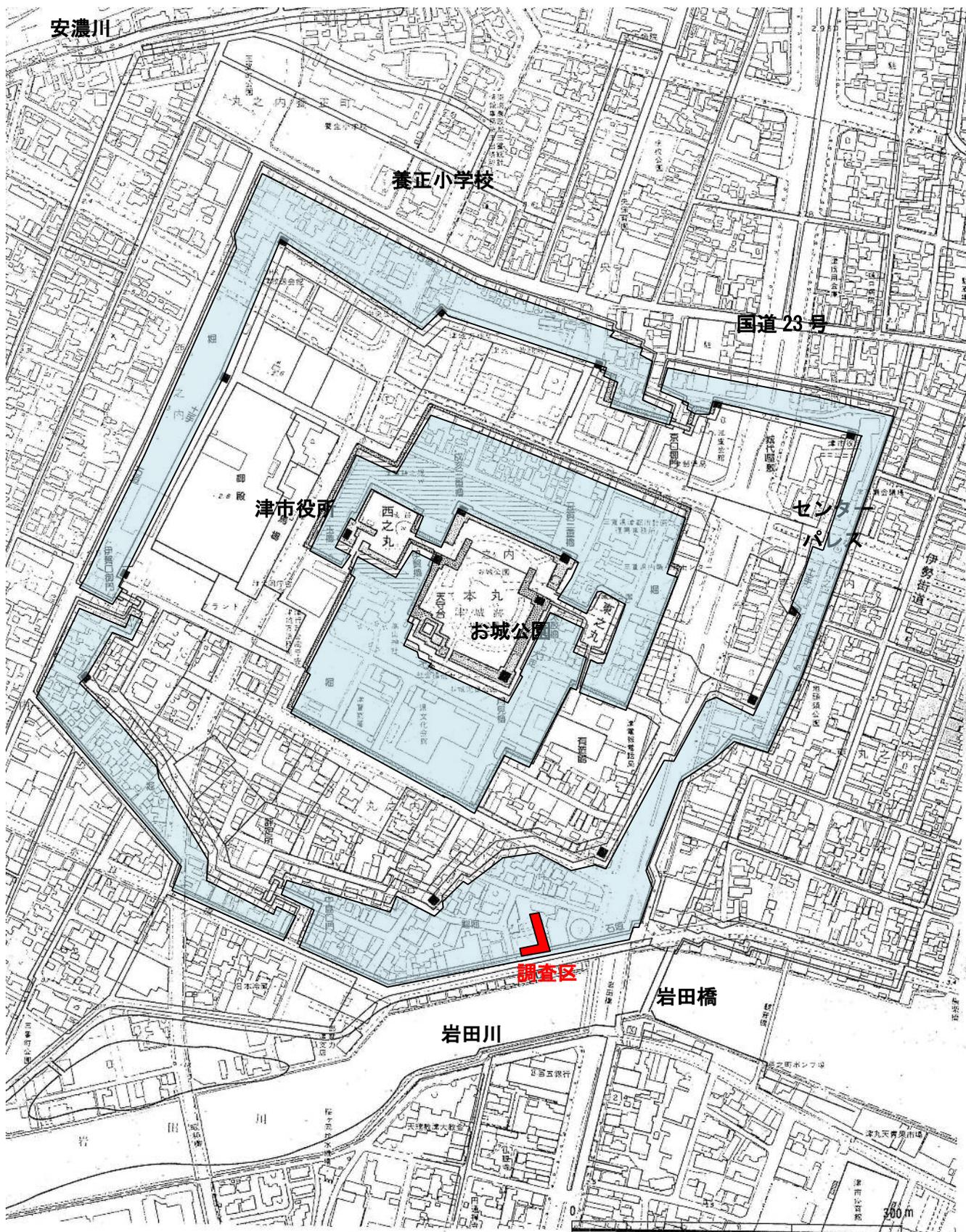


図1 調査区位置図（三重県教育委員会『三重県の近世城郭』を一部改変）



図2 松並木のある堤（嘉永期城下絵図）

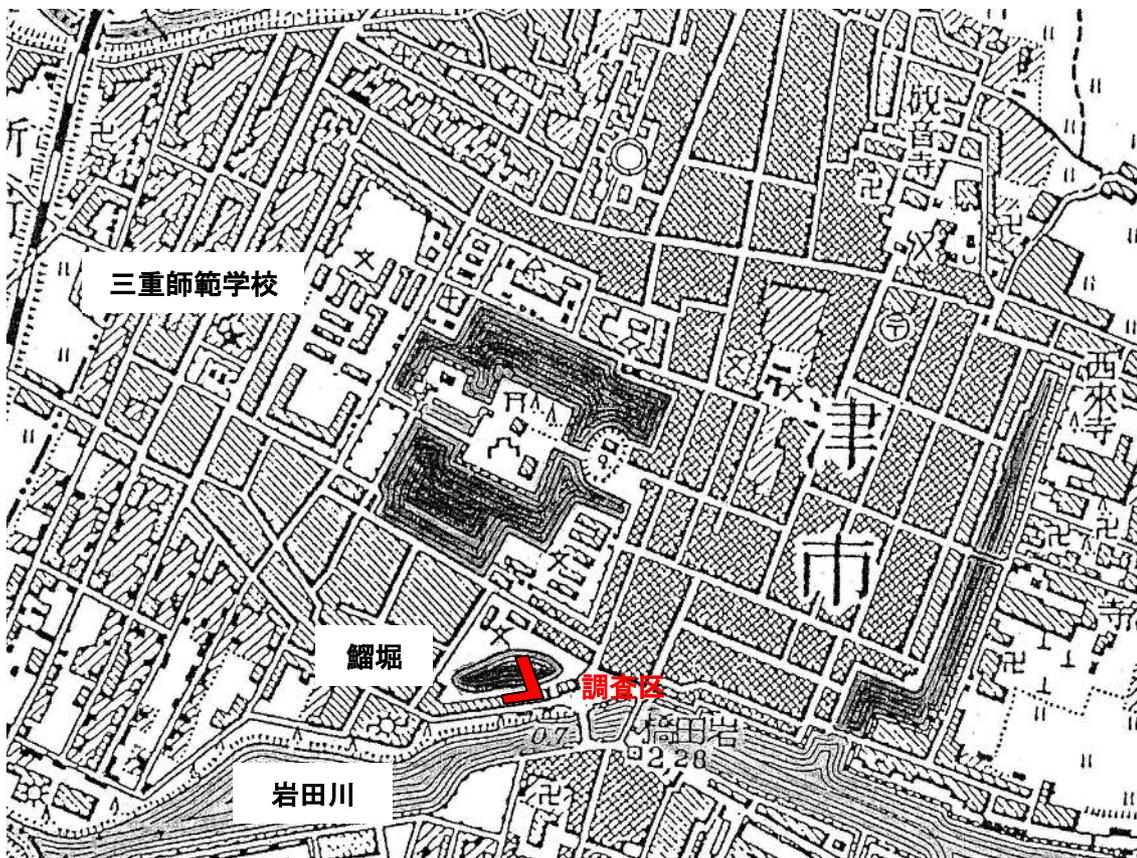


図3 昭和初期の鰐堀（昭和2年）

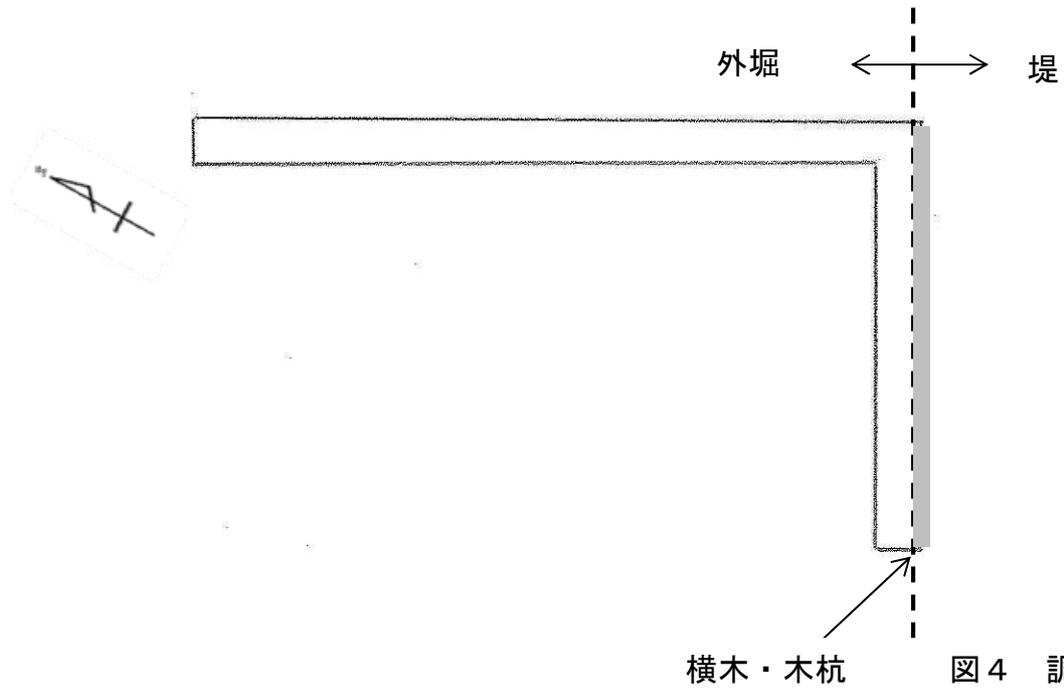
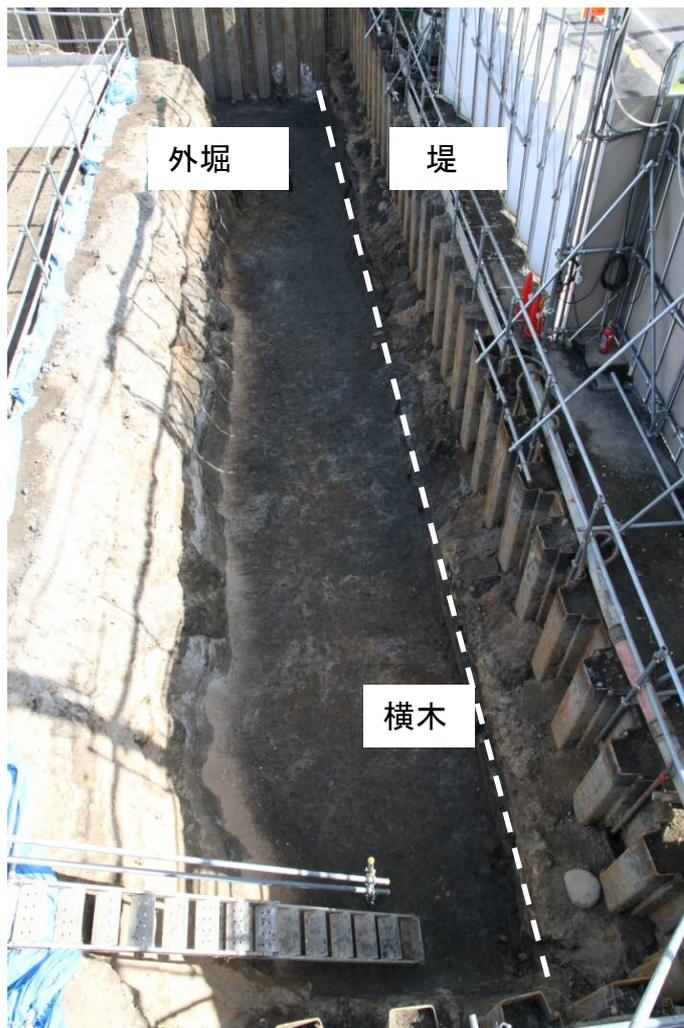


図4 調査区図略図



調査区南部（西から）



横木

木杭

横木と木杭



横木と木杭を固定する樹皮

津城関連年表

西暦	年月	城主	内 容	市内・県内・国内の出来事
1568	永禄11		織田信長の弟長野氏の養子に入る	1567年 信長の伊勢侵攻
1571	元亀 2	織田信包	この頃安濃津城の築造工事始まる	
1580	天正 8. 2	〃	安濃津城がほぼ完成する（五層の天守閣か）	
1595	文禄 4. 7	富田知信	富田氏が城主となる	1582年 本能寺の変
1600	慶長 5. 8	富田信高	石田三成軍の攻撃を受け籠城する	1600年 関ヶ原の戦
1608	慶長13. 8	藤堂高虎	高虎が城主となる	1603年 江戸幕府開く
1611	〃 16. 1	〃	津城の大修築が始まる	
1639	寛永16	藤堂高次	本丸に埋門ができる	1633年 鎖国令
1660	万治 3. 9	〃	東之丸の鉄砲薬蔵を半田口先に移す	
1662	寛文 2. 12	〃	二之丸より出火、本丸が全焼する	1662年 津町大火
1668	〃 8	〃	武家屋敷の出入口に木戸門・番所を設ける	1669年 久居藩の成立
1670	〃 10. 6	藤堂高久	津城の再建普請が完成する	
1672	〃 12. 10	〃	本丸より西之丸通路へ桜門を建てる	
1676	延宝 4. 8	〃	津城を修繕する	
1677	〃 5. 12	〃	評定所を伊賀口御門外へ移す	
1703	元禄16. 11	藤堂高陸	二之丸に御対面屋敷をつくる	1707年 宝永地震
1814	文化11. 9	藤堂高兌	中島口門内に役勘所をつくる	
1820	文政 3. 2	〃	二之丸に藩校有造館を建てる	
1853	嘉永 6. 6	藤堂高猷	丸之内に新御殿をつくり藩主が移る	1854年 安政地震
1862	文久 2. 10	〃	伊賀口御門外に勘定所をつくる	
1863	〃 3. 1	〃	奉行屋敷を南堀端へ移し、桜御殿を造る	1863年 下関事件
1871	明治 4. 8	藤堂高潔	津県庁を二之丸の有造館におく	1869年 廃藩置県
〃	〃 4	〃	京口・伊賀口・中島口の番所を取払う	1871年 津県を置く
〃	〃 4. 9	〃	城中御殿内より出火し焼失する	
1872	〃 5. 1		旧城内の館舎・土蔵等の入札する	1872年 安濃津県を置く
〃	〃 5		城地を陸軍省が所轄する	
1873	〃 6. 12		三重県庁が移転、旧藩校を県庁とする	1876年 三重県が誕生
1879	〃 12		外郭の平櫓12棟等を売却し取払う	1879年 郡制の施行
1885	〃 18. 7		本丸櫓・多聞等を陸軍省が払下る	
1889	〃 22		城地が陸軍省より藤堂家に1万円で払下	1889年 津市の市制施行
1892	〃 25		旧土堤や外堀が埋め立てが始まる	
1939	昭和14. 4		津城跡が風致地区となる	
1944	昭和19. 12		東南海地震により月見櫓台が崩れる	1944年 東南海地震
1947	〃 22		津城跡が公園緑地として計画される	1945年 市街地空襲
1958	〃 33		城跡内の藤堂家の土地を津市が購入	
〃	〃 33		津城跡を市史跡に指定、模擬櫓を建築	
1959	昭和34. 9		伊勢湾台風により石垣が破損する	1959年 伊勢湾台風
1970	〃 45		日本庭園や洋風公園を整備	
〃	〃 45. 7		津城跡の風致地区を廃止	